

| | | | | | | | |
|--------------------|--|------------------------------------|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | 生活支援技術 I Independent Living Skill I | | | ナンバリング No. | J1-007 | | |
| 年次 | 1 年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 |
| 担当者氏名 | 秋山巖 | | | | | | |
| 連絡先(質問等) | 福祉棟 2F 研究室か、メールで対応。オフィスアワーは月・火・木・金曜日の授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程は必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP1, DP2 | | | | | | |
| 授業の概要と 到達目標 | <p>生活支援技術は、科学的根拠に裏付けられた一般原則・原理を体系化したものである。生活支援技術 I では、利用者の尊厳保持、その人らしい生活の尊重、自立を目指した生活支援の意義について理解する。また、ICF の視点に基づき、自立に向けた居住環境、安全で心地よい生活の場の支援について学習する。</p> <p>①さまざまな生活の場があることを確認し、生活支援の意義について説明できるようにする。 ②居住環境整備に必要な視点を挙げ、望ましい生活空間について説明できるようにする。 ③ボディメカニクスの原理について説明でき、介助時、最大限に活用できるようにする。 ④利用者に配慮しながら、ベッドメイキングおよびシーツ・包布交換を行うことができるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 第 1～6 回目は、生活や居住環境に関する講義を行う。第 7～12 回目は、介護実習室にて演習を行う。特に第 8～11 回目は実技演習のため、グループでの演習が中心となる。第 13～15 回目は、居住環境に関する講義とグループワークを行う。実技に関しては授業時間以外の空き時間等を使い自己練習に励み、技術の向上に努めること。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | 利用者の状態に応じた、安全で快適な居住環境を整備することができる。 | | | | | |
| | L02 | 生活および生活支援の概念をもとに、介護の目的を説明することができる。 | | | | | |
| | L03 | | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック | 実技演習後は振り返りの時間を設け、補足説明を加えながらフィードバックする。小テスト(実技試験)は、試験結果を次回授業時に各自にフィードバックする。その際は解説も行う。 | | | | | | |
| 教科書/ 参考図書 | 最新・介護福祉士養成講座 第 6 巻「生活支援技術 I」中央法規出版 生活支援技術マニュアル | | | | | | |
| 履修上の留意点 やルール等 | ●演習時は身だしなみを整えること。●飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机の上に置かない。●やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務 経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|---|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | S 評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。 | | 20 | | |
| レポート/作品 | S 評価のレポートは、演習を振り返り、学びや気づき等、自分の考えが具体的に記述できていること。 | 20 | | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | ベッドメイキングの実技試験を行う。S 評価は、くずれにくく、美しいベッドに整えられていること。 | 20 | | | |
| 試験 | 生活支援の意義や居住環境整備に関する問題を出題する。 | | 40 | | |
| その他 | | | | | |
| 合 計 | | 40 | 60 | | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・介護実習室の使い方・演習時の注意など) |
| | 事前・事後学習 | 授業用のノートやファイルを準備する。演習時の服装(実習服)の準備をする。 |
| 2 | 授業内容 | 生活の定義と全体像 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。 |
| 3 | 授業内容 | 生活と生活者の理解、生活環境・資源 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。 |
| 4 | 授業内容 | 生活支援の考え方とアセスメント |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。テキストの該当ページを読む。 |
| 5 | 授業内容 | 居住環境整備の意義と目的、生活空間と介護 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。テキストの該当ページを読む。 |
| 6 | 授業内容 | 安全で心地よい生活の場づくり① 寝床の意義と機能、多様な寝床の理解(ベッドの使用方法等) |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。居住環境に係わる福祉用具・機器(ベッドやベッド周囲を構成する物品等)にはどのようなものがあるか調べてみる。 |
| 7 | 授業内容 | 安全で心地よい生活の場づくり② ボディメカニクス [演習] |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容を整理する。ボディメカニクスの要点をまとめる。普段からボディメカニクスの動作を意識する。 |
| 8 | 授業内容 | 安全で心地よい生活の場づくり③ ベッドメイキング [演習] 【レポート1:演習の振り返り、提出は第12回目の授業時】 |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル「ベッドメイキング」を読み、手順(具体的方法)や根拠、留意点を確認する。繰り返し練習する。レポート1を作成。 |
| 9 | 授業内容 | 安全で心地よい生活の場づくり④ ベッドメイキング、シーツ交換 [演習] |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル「シーツ交換」を読み、手順(具体的方法)や根拠、留意点を確認する。繰り返し練習する。レポート1を作成。 |
| 10 | 授業内容 | 安全で心地よい生活の場づくり⑤ シーツ交換、包布の扱い方 [演習] |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル「ベッドメイキング」「シーツ交換(包布の交換を含む)」を読み、手順(具体的方法)や根拠、留意点を確認する。練習用チェックリストを使い、繰り返し練習する。レポート1を作成。 |
| 11 | 授業内容 | 居住環境整備に関する生活支援技術のまとめ(環境整備を含む) [演習] |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル「ベッドメイキング」を読み、手順(具体的方法)や根拠、留意点を確認する。練習用チェックリストを使い、繰り返し練習する。 |
| 12 | 授業内容 | 居住環境整備に関する生活支援技術の確認(ベッドメイキングの実技試験) [演習] |
| | 事前・事後学習 | ベッドメイキングの実技試験を振り返り、不十分だった点やできなかった点を復習(練習)する。 |
| 13 | 授業内容 | 利用者に応じた寝床整備の応用(エアマットの使用等含む) 施設等での集住の場合の工夫・留意点 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。さまざまな施設に興味をもち、どのような施設設備や居住環境か調べる。可能であれば見学に行く。 |
| 14 | 授業内容 | 居住環境のアセスメント① 快適な室内環境 [演習] 【レポート2:演習の振り返り、提出は次回授業時】 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。自分自身の日常生活場面での生活環境を見直してみる。レポート2を作成。 |
| 15 | 授業内容 | 居住環境のアセスメント② まとめ 他職種の役割と協働、施設空間(建物)の構成 |
| | 事前・事後学習 | 授業での学習内容(ノート)を整理しまとめる。テキストの該当ページを読む。 |